

## 襖・障子(引き戸)の開け方・閉め方

襖ふすまや障子しょうじは、日本家屋独特のもの。木製の骨格に紙といった自然の素材でできていて、なおかつ軽いので、ていねいに扱う必要があります。

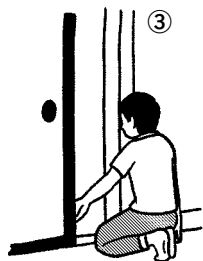
開け閉めするときの作法も独特です。洋室のドアと違って、襖や障子には鍵がありません。かといって、いきなり開けたりすると部屋の中にいる人(部屋から出る場合は廊下にいる人)を驚かせてしまいますし、何より失礼です。

そこで、「入りますよ」と合図を送りながら開ける作法すまじが生まれたのです。

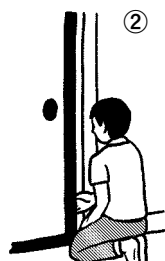
具体的には、襖や障子を左に開ける場合、「失礼いたします」と声をかけ、まず右手を引き手にかけて、少し開いて手の入るくらいの隙間すきまを作ります。これが、部屋の中にいる人への「入りますよ」の合図となるわけです。

なお、襖や障子は和室用の戸なので、中にいる人たちは基本的には畳に座っています。その人たちに失礼のないよう、中に入るときには自分も座り、低い姿勢で戸を開け閉めしましょう。

## ◆ 襖の開閉 ◆



手を替えて反対の手で襖の枠を持ち、残り半分を開ける。



引き手につけた手を襖の枠に沿って下げ、下から15cmくらいのところを持って体の中央まで開ける。

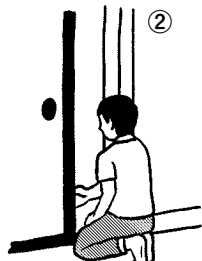


開け方

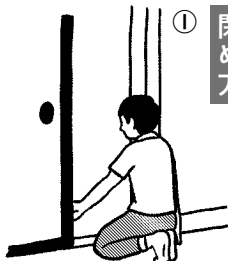
跪座になり、引き手に近い手を引き手にかけ少し開ける。



残り約5～6cmのところまで襖を閉め、引き手にかけて襖を完全に閉める。



体の正面まで襖を引いたら反対の手に持ち替える。



閉め方

襖の前で跪座になり、襖に近い手で下から約15cm上のところで襖の縁を持ち、閉め始める。

## MEMO

- ◆ 開け閉めは片手で  
引き戸を両手で開閉するのは体の動きとして不自然。片手で行いましょう。
- ◆ 開けっぱなしにしない  
急いでいるときでも、開けっぱなしにしないこと。室内の冷気(あるいは暖気)が逃げてしまいます。
- ◆ 引き手より下を持つ  
引き手より下の部分を持って敷居しきいと並行に動かすようにするとスムーズに開閉できます。勢いよく開け(閉め)すぎないよう静かに行いましょう。